

2016年10月2日

**「わたしは、高く、聖なる所に住み、打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共に…」 イザヤ57:15**

復興中のエルサレムは、指導者の腐敗と宗教的墮落が横行しますが、少数でも神を恐れて歩もうとする人々がいます。

主なる神は「高く聖なる所に」おられますが、遠く離れて「永遠に怒りを燃やす」のではなく（→ミケランジェロ「最後の審判」）、「造った命ある者」（→創世記2:7）が「弱り果てることがないように」されます。（すごく近い神！）

生活に困って「貪欲」に走った者に対して、神は「怒って姿を隠した」りされましたが、今は「彼をいやし…回復させよう」と言われます。そして、「遠くにいる者にも近くにいる者にも」、「唇の実り（讚美）を創造し…平和」を与えようとされます。（すごく忍耐深い神！）

「神に逆らう者」もいますが、彼らは見捨てられるのでしょうか。「巻き上がる海のように…その水は泥や土を巻き上げ…平和はない」という有様です。カルヴァンは、「海のとえは優美であり、神に逆らう者の不安な気持ちをピッタリ表現している」と、同情的な言い方をします。迫害者パウロの苦しみに同情された主イエス（→使徒26:14）の優しさが伝わるのです。（すごく優しい神！）

高い所に居られる神は、どんなに低い所に居る者でも見つけて近づき、「み恵み」（讚448番）を与えて強くされます。

2016年10月9日

**「あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。」 イザヤ58:11**

エルサレムの復興の中で富者と貧者の格差が大きくなり、それが宗教的な生活（断食と安息日）にも影響して来ます。

主は預言者に「喉をからして叫べ」と命じ、富者（やみ成金！）が、「断食しながら争いといさかいを起すようなことをやめて、貧者の「軛の結び目をほどいて…飢えた人にあなたのパンを裂き与え」るようにするのが、「わたしの選ぶ断食ではないか」と問いかけられます。

今からでも遅くはないので、間違っているとわかったら素直に改めればよいのです（ナアマン將軍のように！）。そうすれば、「あなたの光は曙のように（→ゼカリヤ14:7）…傷は速かにいやされ…正義があなたを先導する」に至るでしょう。他の人々と共に「（エルサレムの）古い廃墟を築き直し…『城壁の破れを直す者』と」呼ばれるようになるでしょう。

富者たちは、「安息日に歩き回ることを…したいことをするのをやめ…取り引きを慎む」なら、「主を喜びとする」（主を喜び、主に喜ばれる）者となり（→創世記2:3）、「聖なる高台（エルサレムの町）を支配」するでしょう。

私たちが生活を改めると、神は「あなたの渴きをいや」されます。「神の優しさの泉は決して涸れることがない」（カルヴァン）からです（→讚391番）。

2016年10月16日

**「主は贖う者として、シオンに来られる。」 イザヤ59:20**

復興途上のエルサレムの町には、悪がはびこり絶望的ですが（→AWFでのシリアの牧師の話）、主なる神はやって来て、その問題を解決すると言われます。

「主は正義が行われていないのを見られ…」ます（→59:1-14a）。「彼らは平和の道を知らず…まことは失われ、悪を避ける者も奪い去られる」（→ローマ3:10-18）有様ですが、「それでも主は、ご自分の民のことを心に掛けておられる」（カルヴァン）のです。

「主は…執り成す人がいないのを驚かれ」ますが、「救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい、熱情を上着として身を包まれ」ます（→エフェソ6:10-17）。困難が山のようになって迫って来ても（AWFの準備をする人々！）、「主は、せきを止めた川を、そのいぶきで押し流すように」（19節の口語訳）、大きな力を持って解決されるでしょう。

やがて時が至れば、「主は贖う者として…ヤコブのうちの罪を悔いる者のもとに」来られます。それは主が民と結ばれる契約であり、「あなたの上にあるわたしの霊…口においたわたしの言葉は…とこしえに離れることはない」ので、信じて待つべきです（シリアの教会！）。

パウロは「救う方がシオンから来て」（ローマ11:25）と、主イエスの救いが世界に広がると告げます（→讃352番）。

2016年10月23日

**「イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、『子よ、あなたの罪は赦される』と言われた。」**

**マルコ2:5**

イエス様は御言葉を語り、人々を癒されます。ある時、4人の男たちが中風の人を床に乗せてイエス様のところにやって来ます。彼らの求めは異常なほどに熱心です。私たちも少々強引なほどにイエス様との出会いを求めたいものです。

私たちの信仰も不信仰も見ておられるイエス様は、異常なほどの行動の中に彼らの信仰を見られます。そして、彼らの求めとは違うように見える「罪の赦し」を宣言されます。この人が特別に罪深かったわけではなく、人間の根本的な問題を解決されようとされるのです。

罪の根本は、神様にそむき、神様を悲しませることです。私たちは自分のことばかり考える傾向があり、神様の幸福や満足を求める者は少ないのです。しかし、罪を赦されると、私たちは神様の民とされ、神様のために生きる者になります。

律法学者たちは「神を冒瀆している」と反発します。イエス様は「人の子が地上で罪を赦す権威を持っている」と、ご自分が子なる神である、と宣言されます。

罪は「死に至る病」です。神様は罪から救うために独り子を送ってくださいました（ヨハネ3:16）。この奇跡を見た人々は仰天して「神を賛美した」のです。（飴矢牧師の説教要旨—文責生田嘉文）

2016年10月30日

**「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。」 イザヤ60:1**

59章までの厳しい情景で心が暗くなりそうな民に、主なる神は勇気を与えて、明るい気持ちにならせようとされます。

「闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる」状況は変わりませんが、シオンの民が光を放つならば、「国々はあなたを照らす光に向かい…その輝きに向かって歩む」でしょう（→60:4-9のイメージ）。人は明るい光に魅き付けられるのです（スタンドグラスの光！）。

エルサレムの町の復興も、「異邦の人々があなたの城壁を築き…レバノンの栄光は…わたしの聖所（神殿）を輝かせ…青銅の代わりに金を…もたらす」と皆が助けて、大きな力になるでしょう（→上海のリニアモーターカー!）。「あなたの城壁は『救い』と、城門は『栄誉』と呼ばれる」ほどになる、と主は言われます。

その時には、太陽も月も不要なほどに「主があなたのとこしえの光となり…あなたの嘆きの日々は終わる」（→黙示録21:23）でしょう。「神が人間と同じようで、その働きや努力がまたたく間に過ぎ去る、と考えるはならない。」（カルヴァン）「時が来れば速やかに行う」と言われる主を信じて待つべきです。

「アライアンスよ、起きよ」（AWFのテーマ）と呼びかけられて立ち上がる時、主の光が放たれます（→讃380番）。